

活動実績

1 USF/SMU 学術交流プロジェクト

リーダー：田中真木副部門長

メンバー：井村俊義 伊藤祐紀子 秋山剛 牛山陽介 渡辺みどり

平成 28 年度看護海外研修 USF/SMU は、平成 29 年 2 月 26 日～3 月 4 日に行われた。今年度で 14 回目を迎える交流プロジェクトには、大学院生 2 名が参加し、主としてサンフランシスコ大学 University of San Francisco (USF) 及びサムエル・メリット・総合大学 Samuel Merritt University (SMU) のシミュレーション教育の実際(授業や施設見学)を研修した。

本研修は、USF 及び SMU を訪問し、そこで行われている授業に参加し、教育方針や教育戦略などについて理解を深められることをねらいとしている。平成 22 年度から、海外研修成果を形に残すことを目的として、大学院生による各自の関心や研究テーマについて英語でプレゼンテーションし、ディスカッションしている。今年度は 2 名の学生がこの準備を進め、USF で発表した。日本語で自らの研究をまとめ、英訳し、英語で発表するという一連の経験を大学院生がすることは、かなり大変なようであるが、その後得られる教育成果も大きく、貴重な体験となっている。

University of San Francisco (USF)

サンフランシスコ大学は 1855 年にカトリックのイエズス会の伝統に基づいて創立された大学で、人文科学、ビジネス経営学、教育学、法学、看護学の各学部を有する私立大学。看護学部の学生数は約 580 名で、修士・博士課程を有する。博士課程に APN (Advanced Practice Nurse) の上級に位置づけられる、実践を重視した DNP (Doctor Nursing Practice) コースを設けている。

Samuel Merritt University (SMU)

1909 年に設立されたアメリカ西海岸を代表するヘルスサイエンス系大学であり、医学、看護学、作業療法 理学療法、医師補助 (Physician Assistant) などの学部を持つ。看護学は Family NP を中心に博士課程までの教育を行っている。今回訪問した School of Nursing はサンフランシスコ市内より車で約 30 分に位置する (San Mateo)。大学の規模は大学教職員 250 名、学部学生 580 名、修士学生 580 名、博士学生 260 名である。

研修の行程は以下の通りである。研修 2 日目には Anne Davis 名誉教授のご自宅である有料老人ホームと併設クリニック、Nursing Facility を見学させていただいた。

研修行程

期日	午前	午後
2月26日(日)	サンフランシスコ着	
2月27日(月)	USF 授業参加	院生によるプレゼンテーション シミュレーション教育のゼミに参加
2月28日(火)	USF 授業参加	Anne Davis 先生 表敬訪問 高齢者施設・クリニック・ Nursing Facility 見学
3月1日(水)	SMU 講義 * Medical surgical courses * Concept of Mindfulness and followed by an activity related to the topic	シミュレーション教育のゼミに参加
3月2日(木)	研修のまとめ	
3月3日(金)	SF 出発→羽田空港着 3月4日(土)	

USFのシミュレーション教育場面



SMUのシミュレーション教育場面



2 サモア国立大学学術交流プロジェクト

リーダー：宮越幸代副部門長

メンバー：多賀谷昭 内田雅代 御子柴裕子 島袋梢 下村聡子 田村かおり

(1) サモア国立大学 (NUS) と本学の絆をつないで下さった Eseta Hope 先生への謝意

本学の開学 20 周年記念シンポジウムのために来学し、サモアの精神保健について語って下さった Eseta Hope 学部長が平成 28 年 5 月に永眠された。先生は NUS と本学の重要な架け橋であるとともに、近年はこの交流事業を広く知らしめたいと記念誌の編さんを提案下さった。7 月 12 日に学内で開催した先生への感謝の会には、今年渡航する国際看護実習の履修生だけでなく既卒の履修生も駆け付け、現地でも日本でも周囲の方々に常に細やかな気遣いをされていた先生のお姿を偲んだ。サモアからの留学生を受け入れた年の卒業生の中には、いつかサモアで留学生に再会したり、NUS の先生方にお会いしてみたい、と夢を描きながら日々の仕事や子育てに向き合っている方もいる。私たちは Eseta 先生のご遺志を忘れることなく、双方の国でかけがいのない経験をする学生たちのその後も支援していきたい。

(2) サモアでの国際看護実習：サモア国立大学と本学との学生交流

平成 28 年度はサモアに渡航して行う実習の年度にあたり、4 名の 3 年生が履修した。かつて本学に来学した留学生だった Henly 氏は、今や現地の臨床業務に、地域保健に、国際的な研究活動に、多忙な中でも私たちに公私にわたる支援をして下さった。ウポル島とサバイイ島という、異なった島々で履修生たちはそれぞれの関心に沿ってサモアの母子保健や学校保健、在宅訪問看護の実際に参加した。ラロマヌ病院では看護師長が終日、訪問看護に案内下さり、夕方のカンファレンスでもスタッフとともに学生の疑問や学びを一つ一つ確認して下さった。履修生たちは、これからの領域実習でまず日本の看護をしっかりと学ぶこと、その中でサモアとの看護の違いや、それぞれの背景を対比して理解する力を徐々につけていく必要性を実感できた。

Fulisia 前学部長の墓参



英語での報告会



3 中国医大/揚州大学学術交流プロジェクト

リーダー：喬炎

メンバー：北山秋雄 屋良朝彦 柄澤邦江 近藤恵子

(1) 揚州大学訪問：

平成 28 年 3 月、北山秋雄（IRC 部門長）と喬炎が揚州大学を訪問し、以下の講演を行った。

遠隔看護の応用と進展（北山秋雄）

紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発（喬炎）

(2) 揚州大学教員来訪：

平成 28 年 8 月、揚州大学史宏燦医学部長、劉永兵看護学科長と梁景岩教授 3 名が来訪し、学内研修会と昭和伊南総合病院、在宅看護の見学を行った。

(3) 揚州大学看護学研究科院生 2 人の短期留学：

平成 28 年 9 月～12 月、袁媛さん（健康・保健学分野）と常淑文さん（基礎医学・疾病学分野）が本学に留学した。

(4) 中国医科大学訪問：

平成 28 年 9 月、北山秋雄（IRC 部門長）と喬炎が中国医科大学を訪問し、看護学院にて以下の講演を行った。

遠隔看護の応用と進展（北山秋雄）

紫外線を用いた褥瘡の早期診断法の開発（喬炎）

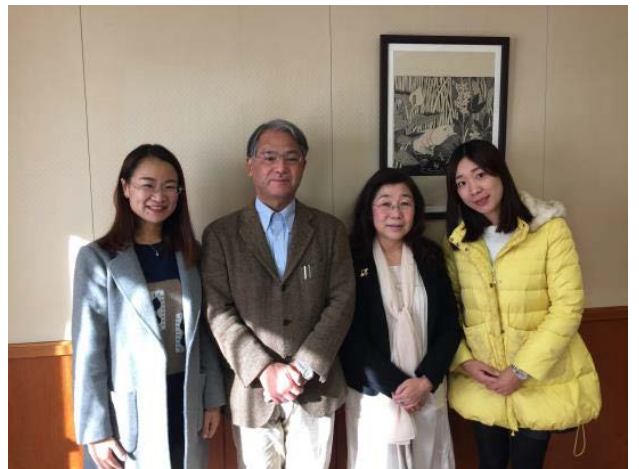
(5) 中国医大教員来訪

平成 29 年 3 月、中国医大看護学院教員 3 名が来訪した。

中国医科大学における北山教授の講義



清水学長、北山教授と揚州大学からの短期留学生



4 外国籍市民の健康支援プロジェクト

リーダー：宮越幸代副部門長

メンバー：塩澤綾乃 島袋梢

本プロジェクトは、外国人の「定住化傾向」が認められる長野県で、外国を母国とする方々とともに同じ地域の構成員として安心して暮らすことができ、その力を発揮できるための方策を模索している。

1) 長野日伯学園・上伊那生協病院・長野県看護大学の3者連携の取組

「ブラジルから来た子どもたちの栄養状態を何とかしたい、助けてもらえませんか？」上伊那生協病院から看護大学に直接相談にいらしたことがきっかけで、病院と長野日伯学園、看護大学による3者協働の取組が始まった。折りしも、大学でも政府が提唱する「多文化共生」をめざした授業（多文化共生看護学）が始まっていたところ。病院と看護大学による学童健診、看護学生によるぴあ健康教育（性教育、栄養教育など）、収穫した野菜でつくる2国間料理交換企画、スポーツイベントなどを実現してきた。

在日の方々とは、同じ地域に暮らす住民同士でありながら、お互いがなかなか知り合えないのが現状ではなかったか。本学の学生もこの活動を通して日本に暮らす不便さや戸惑いを理解したうえで、必要な役割や自己管理ができるようサポートする大事な役割を学んでいる。

この試みについて10月8日（土）には、第1回日本HPH（Health Promoting Hospitals & Health Services）カンファレンス・ポスターセッション（東京）で発表した結果、学園と看護大学が「優秀賞」でカップリング受賞した。副賞は学園の学童への書籍寄贈（本学の重複廃棄書籍と合わせて）購入とした。

長野日伯学園と行ったポスター発表が学会で受賞



2) 必修科目「多文化共生看護学」の演習として学生有志との企画

① 長野日伯学園および上伊那生協病院、看護大学合同スポーツ祭

平成 28 年 9 月 22 日（祝・木）

学童・生徒とその保護者、病院関係者、看護大学学生が伊那市民体育館でインディアカとフットサルの競技を行った。1 グループは準備体操の企画や交流、校長先生へのインタビューから捉えた学童らの身体機能や行動を分析し、学内発表会で彼らへの効果的なアプローチを発表した。また 1 グループはゲーム形式での「手洗い習慣」「バランスよい食事」「生活リズム」の大切さを講演し、対象の特徴を踏まえた教育手法を学んだ。

② 松本多文化共生プラザの在日外国人を対象とした支援企画への参加

平成 28 年 8 月～11 月

学生 8 名 3 グループが教員と共にプラザ（松本市 M ウイング）を訪ね、在日外国人を対象とした「学童の夏休みの宿題支援」「家族が亡くなった時の手続き講座」「（日本特有の）PTA 講座」の 3 企画に参加した。講座では普段、予想もつかなかった外国人の方々の日本での戸惑いや対処方法を学ぶと同時に、現実的な質疑応答場面にも同席させていただいた。定例の茶話会は今年も同じ市民の一員として語り合う貴重な時間となった。

その他に、赤穂公民館の日本語教室での健康教育、信州大学での留学生終了発表会、高等教育コンソーシアム信州企画の県内外国人留学生との合同キャンプなど、履修生全員が県内での演習を通して、在日外国人という対象の理解とその支援方法について考察、発表する機会を得ることができた。

5 カンボジア等(東南アジア地域)交流プロジェクト

リーダー：北山秋雄部門長

メンバー：喬 炎 宮越幸代 田中真木 田村かおり

北山プロジェクトリーダーが長年学術活動を共にしてきた北原国際病院(KNI)理事長北原茂実医学博士は経済産業省の支援の下、途上国への“日本式医療の輸出”による国内経済成長と国際貢献を目指して特にカンボジア等東南アジアを中心に医療活動を展開している。本プロジェクトは北原国際病院と協働して途上国の医療人材育成に寄与することを目指している。

平成29年3月8日、喬炎教授とともに東京都八王子市の北原リハビリテーションの新病院と研修センターの建設現場を視察し(<http://join4future.com/report/7564/>)、協働して途上国の医療人材育成に寄与することを確認した。

北原リハビリテーションの新病院と研修センター視察

